

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後デイサービスあおば					公表日	2026年1月24日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		指導訓練室は十分な広さがある。折りたたみ座卓、ロールカーテンを使用し、活動に合うように工夫できる。	計画書の見直しの面談時などに施設内を見ていただき保護者の方々には確認をして頂いている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		配置人員を含めて規定以上に人員配置をしている。	人員配置を含め、安全を考えてのハイチをしている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		玄関につながる、ガレージがある。施設内はバリアフリーで床にはクッションフロアを引安全などを考慮している。	見ただけで分かる。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		備品等フロアの床、扉の取っ手、おもちゃ、文房具等の清掃、消毒を毎日行っている。	今後も継続していく		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		カーテンで仕切って視覚上では切り離された空間にできるので気持ちの切り替えに利用している。	視覚的には狭い空間になりクールダウンや別活動の場になっている。音の遮断は難しいが隣にいる人の気配を感じて安心感につながっている		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		朝のミーティングなどでの職員同士で話し合いをしている。	今後も継続していく		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		評価表を保護者様の思いを把握する良い機会と前向きに捉えて改善につなげている。	保護者の思いに寄り添い考えなどを参考にし改善に努める		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		普段から職員間での意見交換が行うようにしている。	小ミーティングを頻繁に行っている。すぐ出来る事から改善している。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		保護者、芦屋市・神戸市の相談員、神戸市の巡回支援、他事業所等の見学の要望には応え、率直な意見を取り入れている。	外部からの評価を聞く機会を大事にしている		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		資格所得の研修などの費用、勤務時間について援助を行っている。	施設内で職員の勉強会を開催している。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		公表している。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		前もって、個別支援計画書のアセスメントシートを渡し必ず面談をしている。	ご家族の思いをよく伺って職員間で話し合って計画を立てている		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		計画書に原案を作り、職員を交えケース会議を行っている。	ケース会議で意見を出し合い支援の内容を検討し作成している		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		個別支援計画書のコピーを回覧している。ケア記録の表紙裏に計画書と共に一目で分かるように支援内容をまとめたプリントを入れ、利用日には毎回確認を行っている。	今後も継続していく		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	△		制作については独自ツールで客観的に確認しながら行っている。	送電院の意見も聞き確認している。医療機関等で発達検査をされた際、結果の共有をお願いしているが独自にと言われると難しい		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		具体的な支援目標設定を心掛けて、達成ができるように心掛けている。	施設単独で行える支援は継続していくが、地域との連携は利用者の特性もあり難しい面もあるが前向きに模索をしている		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		プリント作成など、児発管を中心にお子様一人一人に合わせた物を作り活動内容を話し合っている。	子どもの好きなジャンルを取り入れ全員が楽しんで出来るように心掛けて意見を出し合っている		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		繰り返しやるのでは、飽きてしまうので定期的に変更を考えている。	やろうと思う気持ちが出るように考えていく。		

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		1人を好むお子様に集団遊びの楽しさを、落ち着きのないお子様が長時間座れるようになど目的に応じて計画を立てている	きめ細やかな内容で計画を立て、丁寧に説明をし支援をしていく
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		活動前には、今日来所するメンバーを把握し各子どもたちのプリントや今日行くことを確認している。	来所前に用意を済ませている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		職員間の連絡ノートを作っており、お子様の普段と違う行動や、成長を感じたエピソードについて等社していない職員とも情報共有している	今後も継続していく
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		ケア記録を必ず手書きしている。	今後も継続していく
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		個別支援計画書の見直しを必ず6か月毎に行い見直しをしている。	今後も継続していく
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		利用者は遊んでいる様楽しんでるが違う狙いを考えて支援している。	地域交流の参加、感染症の流行などタイミングがあり難しい
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		答えを決めつけず、必ずお子様に選択肢を与えて選び取れるようにして、意思の確認を行っている	今後も継続していく
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		相談員が施設に訪れてお子様について意見交換を行うことが多い	ワンフロアなので全員の様子を職員は把握できている
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		学校の先生、相談員との学習や日常生活の情報共有、協力医療機関には感染症、服薬について等意見を求めている	今後も継続していく
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		年間計画、毎月の学校からのおたよりを参考にしている。急な変更等は直接学校と確認を取り合っている	今後も継続していく
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		自発支援事業所の方の施設見学を行っている。	紹介もいただき、情報共有もしている
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		引継ぎの会を作っている。求めがあれば直接事業所に出向いたり、書類での情報提供をしている	今後も継続していく
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		日時的に、参加が難しい。	機会があれば参加したいと考えている
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		芦屋の放課後デイの集まりを作り作品展などを通じて行っている。	イベントなど積極的に参加を考えている
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		参加できる時間帯であれば参加している	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		児発管が直接保護者と話し合い、理解を取り合っている。	学校や家での情報を集め行っている
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	△		色々な行動の中、褒めてやる事を重要と考えて頂く。口頭での情報の共有をする。	神戸市等からの講習の案内（チラシ）をお知らせしていく
保護者へ	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧に説明を行っているか。	○		契約時に説明させて頂いているが、不明点は都度ご説明している。	契約時に利用者負担等は説明しているが支援プログラムについては順次ご説明させていただく
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		送迎時に常にこちらから声を掛けるように考えている。	今後も継続していく
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		個別支援計画書を必ず確認して頂き署名を頂いている。	今後も継続していく
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		学校での問題点や日頃に生活での問題点に関していつでも相談を施設にて面談をし受けている。	今後も継続していく
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	○		保護者の方々が共働きが多く仕事をされていて集まる事が難しい。	開催の機会を考えていく。

の 説 明 等	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		体制は整えており、契約時にご説明している。苦情に関しては真摯に対応している	苦情のないよう定期的に職員間で話し合いをしている。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		あおばだよりを1か月から2か月を目処に発行している。外出や施設でのイベントは写真を多用して紙での報告を心掛けている。	特にHPやSNSを活用は考えていないが、実際に頑張っている姿を見て頂きたい時は、スマホで写真や動画を撮って個人的に見て頂く事もある
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		鍵の掛かる書棚にて保管している。外部の施設利用で使用する時も取り扱いには細心の注意を払っている。	今後も継続していく
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		発語が出来ないお子様とは筆談やハンドサイン、絵カード等を利用している。	今後も継続していく
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		会場を借りての子どもたちの作った作品展の案内（チラシ等）で地域にアピールしている。	地域住民への告知をポスター等で行い魅力的な活動、施設を目指していく
非 常 時 等 の 対 応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		マニュアルを作成し、いつでも見て頂けるように準備をしている。職員とは研修などで訓練をしている。	今後も継続していく
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		定期的に災害避難訓練を行っている。	訓練の様子を写真を使いお手紙にして保護者にお知らせしている。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		アセスメントシートにより契約時には発作の有無、頻度、服薬状況の確認を行っている。	今後も継続していく
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		アセスメントシートにより契約時には食物アレルギーについて確認を行っている。	今後も継続していく
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		作成した安全計画に沿って研修、避難訓練等を行っている。	今後も継続していく
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		訓練のお知らせ時に内容を知らせている。	今後も継続していく
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリとした時には再発防止に繋がるように書類に記入して状況について共有している。	今後も継続していく
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		年に1回職員の研修会をしている。	虐待防止について研修会を行って啓発していく
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		同意書を作り、契約時に、お子様の特性により、自傷、他傷の危険がある時は身体拘束を行う事を説明しているが、実際その事例はない。	身体拘束について研修会を行って啓発していく	